

## 「繰り返し」による漢字語彙の定着に 重点をおいた漢字授業

—PowerPointを活用した初中級授業の分析—

木村祐子・北村尚子・富谷玲子

The authors define the term *kanji capability* as the ability to understand the usage of kanji in addition to their shapes, sounds and meanings, and to practically use them as items of vocabulary. In this study, empirical research was conducted in an actual class aimed at teaching students kanji as vocabulary—a process considered difficult based on self-learning alone. In classes, illustrations showing kanji studied on the course were repeatedly displayed to promote learning of their shapes as well as their readings, meanings and usage as vocabulary. Microsoft PowerPoint (PPT) was used to enhance student comprehension and visual learning. The PPT materials were designed to increase the frequency of repetition not only by re-displaying previously learned kanji but also by pre-introducing new vocabulary to be covered in future classes. In this study, analysis focused on the learning of kanji shapes as well as their readings and meanings as elements of vocabulary.

The analysis revealed a moderate correlation between the number of kanji vocabulary items presented in illustrations and the quality of end-of-term exam results for reading, but a low correlation for writing. This illustrates a certain level of effectiveness in learning kanji readings and meanings in addition to their shapes based on repeated display of illustrations.

**キーワード**：漢字授業，漢字学習，語彙学習，繰り返し，PowerPoint (PPT)

## 1. はじめに

筆者らは、日本で学ぶ日本語学習者のニーズに応えながら「漢字力」の育成につながる漢字授業の在り方を模索してきた。高度な日本語能力を獲得するためには、漢字学習を欠かすことが出来ないが、日本語の漢字語彙のもつ複雑な読みの体系と細分化する意味の体系は、多くの学習者にとって日本語学習上の最大の困難の一つと認識されている。

特に初中級レベル（日本語能力試験のN4合格レベル）は、中上級への日本語学習の継続という観点から見ると、漢字数および漢字語彙が急増する手前の段階である<sup>(1)</sup>。そのため、今後知らない漢字語彙に出合ったときに、その言葉の前後から意味を推測する力も必要になる。また、読み方も意味も知っている漢字語彙については、実際に使用する場合の使い方を意識し、練習し、自律的に身につけていくことが重要であると考えられる。

## 2. 先行研究

まず初めに、漢字授業で習得を目指す力（「漢字力」）とは何かについて考えたい。

加納（2007）は漢字が担っている情報として「形・音・義」の3つに加えて、言葉としての「用法」があるとし、その言葉が文中でどのように使われるかという「用法」をも一緒に覚えないとその言葉を使えるようにならないとしている。漢字の「用法」にあたる知識として、加納（2000）では、漢字熟語の品詞性、助詞等との文法的共起性、他の語との意味的共起性、類義語・対義語などの関連語ネットワークを取り上げ、漢字語彙を学ぶ際にそれら用法に関する知識を同時に学ぶことが漢字語彙力拡張のために重要であると述べている。用法に関する知識を学ぶことは漢字語彙を拡張するためには重要であるが、それを実際の場面で使っていくための力＝運用力をもつけないと漢字力がついたとは言えない（北村・木村2009）。

実際に外国人学習者が漢字を学習する際にどのような方法を用いているかを調査したものとして、加納（1997）、中西（2008）があるが、この2つの調査からも学習者は「形」や「音」、「意味」に着目して学んでいることがわかる。漢字の「形」、「音」、「意味」や漢字語彙の「書き」、「読み」、「意味」の学習を超えた言葉としての「用法」をも含む語彙学習という視点を漢字の授業に取り入れることが必要だと言えるだろう。そうした知識は、「実際の場面で使っていくための力＝運用力」（北村・木村2009）をつ

ける前提となるものである。

以上のように、漢字学習には語彙学習の側面が大きい。望月他（2003）は、テキストの中で繰り返し出合った単語が学習を容易にするもっとも大きな理由を、「テキスト中で繰り返し多様な意味や用法で単語が用いられれば、学習者は内容全体の意味を読みとりながら、その単語の意味を明らかにできることがあるから」としている。また、「高頻度の語の場合は、学習者がすでにそのテキスト以外のどこかで出会い、テキストを読みながら最初に出会ったときの不完全な記憶を呼び起こしつつ意味を思い出す、ということも考えられる」ともしている。

「繰り返し」の提示頻度と学習との関係を調査した研究は多くある。Saragi, Nation and Meister（1978）は、繰り返しは語彙学習に影響する数多くの要因のほんの1つであり、「繰り返し」と学習の間の相関は一般に中程度のものしかないとしているが、テキストに6回未満提示された単語を学習した被験者が半数にとどまるのに対して、6回以上出てきた単語は、9割を超える（93%）被験者に学習されたとして、6回以上の「繰り返し」が学習につながると示唆する調査結果を報告している。Tinkham（1993）の調査では、被験者により学習するのに必要な提示回数は異なるとし、ある語の学習までに20回以上の「繰り返し」を必要とする被験者も少数ながらいたとしながらも、ほとんどの被験者は5～7回の繰り返しが必要としたという調査結果を出している。Rott（1999）は、テキストに2回、4回、6回提示されるよう統制された目標語の学習状況を調査し、4回提示された語と2回提示された語では、その学習量にあまり差が見られないのに対し、6回提示された語では学習量が多くなることを明らかにした。Zahar, Cobb and Spada（2001）は、テキストの中に出てきた単語の提出頻度と、テキストを読んだ2日後に行った単語テストでの正答の関係を調査し、被験者が単語テストで正答した語のテキスト中での平均提示回数は7回であったという調査結果を報告している。これら語彙の「繰り返し」と学習との関係を調査した先行研究では、ある語彙が学習者に学習されるまでの「繰り返し」の回数は5～7回の間で、非常に近い数値を示している。このことから7回程度の「繰り返し」が語彙の定着の一つの目安となると考えられる。筆者らは、このような語彙学習における「繰り返し」提示による語彙の定着を漢字指導における漢字語彙の定着に取り入れようと考えた。

### 3. 研究の目的

本研究では、学習者が「漢字力」を無理なく獲得するために、以下の方法が有効であると考え、その有効性について検討する。

- (1) 「繰り返し」漢字を提示することで、漢字が無理なく定着する。
- (2) 漢字の「運用力」をつけるためには、「書き」「読み」「意味」に加えて「用法」を含むネットワーク型の漢字教材が適切である。

## 4. 研究方法

### 4.1 研究方法

漢字の授業実践を通じ、以下の方法を用いて上記の2つの仮説を分析する。

- ・ 授業実践開始時の学習者の漢字学習に対する既存のピリーフを調査する。
- ・ 上記ネットワーク型の教材を開発し、授業で実践し、評価する。
- ・ 漢字の「繰り返し」の頻度と漢字の定着についての相関関係を分析する。
- ・ 授業実践後の学習者の漢字学習に対するピリーフを再調査し、ピリーフの変化の有無を調査する。

### 4.2 調査対象

#### 4.2.1 調査対象クラスの概要

授業実践を行った漢字クラスの概要は次の通りである<sup>2)</sup>。日本国内の留学生のコースで、『Basic Kanji Book 500 Vol. 1』(BONJINSHA CO. LTD)の漢字(251字)を既に学習した学生、『Basic Kanji Book 500 Vol. 1』程度の漢字(基本漢字約250字)を既に学んでいる学生を対象とし、『Basic Kanji Book 500 Vol. 2』(以下、BKB2と略す)の前半の11の単元(23課～33課)で導入される漢字(128字)を学習する初中級レベルの漢字クラスである。のちに、BKB2の後半(34課～45課:121字)を学習する中級段階へつなげるとい位置づけにある。

調査対象とするのは、週1回1コマ(90分)の授業、1学期分(15週)である。1回の授業でBKB2を1課ずつ進み、学習した漢字については翌週に読みクイズ、翌々週に書きクイズを行う形で1つの課の漢字に対して2週にわたってクイズを行い、28課まで終わった時点で中間テストを、そ

して学期末には全課を試験範囲とする期末テストを行った。また、授業実施前及び終了時にアンケートを行い、漢字学習に対するビリーフを調査した。

調査対象者数は、52名<sup>(3)</sup>で、大学院生、学部生、留学生別科の学生と様々であった。また、漢字圏、非漢字圏の学生、そして帰国子女やどちらか片方の親が日本人という国際結婚家庭の学生といったように、漢字学習の背景も多岐に渡った。なお、調査対象となる学生には、研究倫理上の配慮として、授業の改善と向上のために、本授業で用いたクイズ、テスト、アンケート、及び、宿題等をデータとして使用して調査、研究を行う旨を伝え、データ使用について、承諾を得た。データは研究目的以外には使用しないこと、データを扱う際は個人が特定されないよう個人情報を守る旨口頭および書面で示し、同意を得た。

## 5. 結果

### 5.1 漢字学習に対するビリーフ（授業前）

授業開始時に筆者らが担当するクラスの受講予定学生35名に、漢字の学習についてアンケートの形式で簡単な漢字学習ビリーフに関する調査を行った。学生の所属の内訳は、学部5名（全て漢字圏）、学部 [交換留学] 5名（漢字圏1名、非漢字圏4名）、大学院12名（漢字圏2名、非漢字圏10名）、留学生別科12名（漢字圏2名、非漢字圏10名）である。

「漢字学習で難しい点」については、「漢字の読み方—音読み、訓読みなど様々な読み方をどう覚えたら良いのか—」、「書き方—複雑な字形をどのように記憶したらいいのか—」といった2つの項目に、漢字圏、非漢字圏を問わず集中する傾向があった。一方、「漢字の授業で漢字の何について勉強したいか」という質問に対しては、「町の名前とか人の名前」「簡単に覚える方法」「字源が知りたい」「漢字につながる絵/連想を知りたい」など様々な意見が寄せられた。

アンケートの結果から、学習者は漢字を学習する際「形・音・義」の学習にとどまりがちであることが分かった。「形」や「音」、「意味」に注目した意見が多く、「文の中で使えるようになりたい」という漢字の「用法」に関する意見を挙げた学生は2名（漢字圏1名、非漢字圏1名）にとどまる。

## 5.2 「繰り返し」に重点を置いた漢字授業の実践

はたして漢字授業では何を教えるべきなのだろうか。漢字の読み書きは自宅学習に依存する部分が大きく、宿題として課すことである一定の効果は得られると考えられる。授業では、学習者が自習するのが難しい部分に焦点を当て進めることを念頭におき、以下の教材を開発した。

クラスの目標は、「正しく書ける」「正しく読める」「正しく使える」ととし、漢字語彙を繰り返し用例の中で提示することで定着を促した。その際、視覚的刺激として授業での漢字提示にパワーポイント（PPT）を使用した。

授業では、単漢字ではなく漢字語彙を用例とともに何度も「繰り返し」提示することを取り入れ、この「繰り返し」の提示により学習者への漢字語彙の定着を促した。ここで言う定着とは、クラスの目標である漢字語彙を「正しく書ける」「正しく読める」「正しく使える」ことを指す。

「繰り返し」に重点をおいた授業を行うために、PPTの様々な機能を利用し、PPTのスライド（図1）に沿って授業を進めた。また、スライドと連動した漢字書きこみシート（図1）、スライドの中で扱った例文を自宅で復習するための読み練習シート（資料1）などの紙による教材も合わせて開発し、配布した。この他に、授業で学んだ漢字語彙の「意味」や「用法」を理解し実際に運用できるかどうかを確認するために「短文作成シート」（資料2）による短文作成を宿題として課した。

PPTでは各課の漢字とその漢字を用いた漢字語彙ごとに例文で用例を示し、その際、授業内で扱う漢字語彙を繰り返し取り入れることを目指した。例文の作成にあたってはいくつかのコーパスを参考にし、適切な語彙の使用となるよう心がけた。漢字語彙が使われる状況をより正確に伝えるために全ての例文に写真や絵を添えた。また、必要に応じて品詞性や文法的共起性、他の語との意味的共起性、類義語・対義語などの関連語ネットワークに関する情報についても提示し、「用法」を意識させることにも努めた。

授業は、以下のaからfの流れで進めた。但し、d、eに関しては必要に応じて取り入れた。

### a. 単漢字の筆順の提示：

アニメーションを使い、漢字の筆順を一画ずつ筆の進む方向を示しながら確認を行った。

**b. 漢字語彙単位での読み・意味の確認：**

学習する漢字を使った漢字語彙を提示し、読みと簡単な英訳を後から表示する形で漢字の読みとおおよその意味を確認した。漢字語彙を提示する際、音読みの漢字は赤字で、訓読みの漢字は青字で提示し、学習者が漢字語彙の読みを推測するヒントを与える工夫をした。

**c. 用例（漢字語彙を使った例文）の提示：**

前のスライドで提示した漢字語彙の用例を、写真や絵などとともに文の形で提示し、漢字語彙が使われる状況や文脈と合わせて示した。その際、漢字の読みは学生に文を読み上げさせた後から提示し、読みの練習も同時に行った。

**d. 漢字語彙の用法の確認と例文の提示：**

その漢字語彙が動詞であればどのような助詞をとるのか、その言葉はどのような言葉と共起するのか、あるいは、どのような文脈で使われやすいのかといった言葉の用法を例文とともに示すことで意識させるように努めた。

**e. 類似表現や対義表現、派生語などの紹介：**

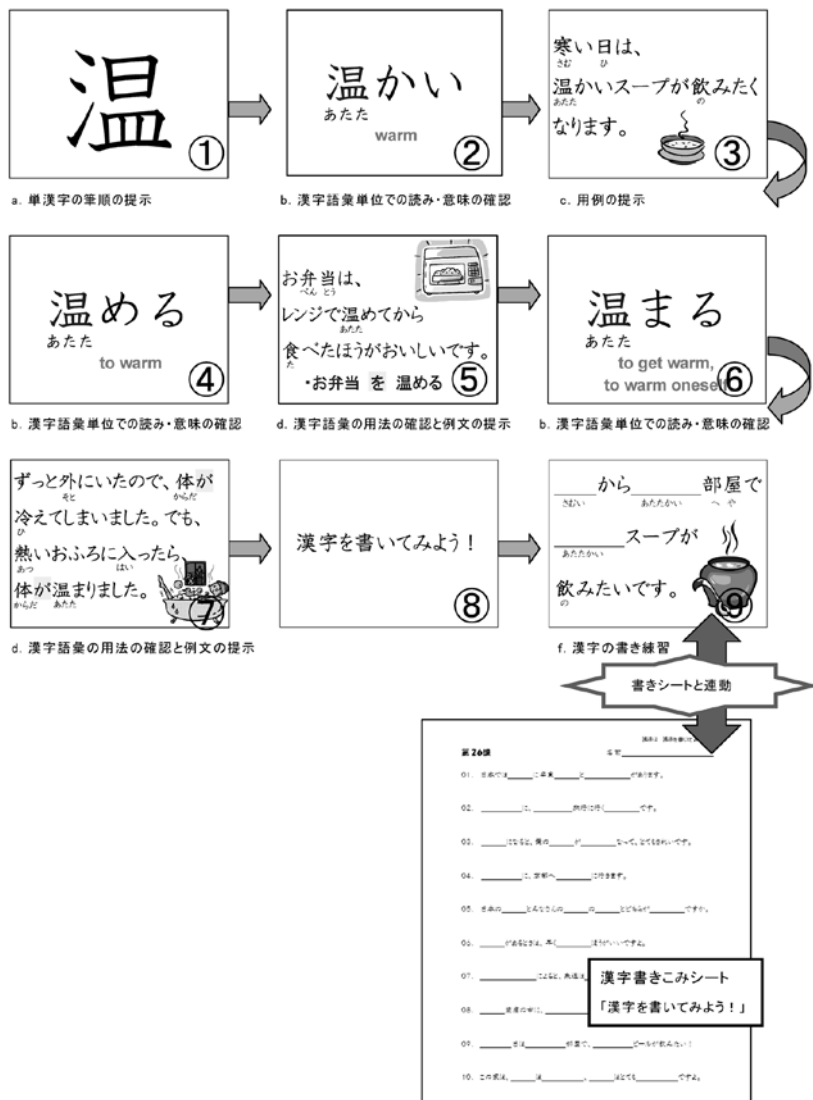
漢字語彙を広げたり、漢字語彙の整理をしたりするのに役立つ情報を提示し、漢字語彙のネットワークを活性化させるよう努めた。

**f. 漢字の書き練習：**

単漢字からその漢字を使った漢字語彙を学んだあとに、実際に文章の中で漢字を書く練習としてPPTのスライドと連動させた漢字書きこみシート「漢字を書いてみよう！」に漢字を書きこませ、漢字語彙の読みと意味だけではなく字形としての定着も図った。このシートは授業終了後に教師が回収し、字形が正しく書けているかの確認を行った。

この授業の構成を、実際に使用したPPTのスライドと合わせて示すと、図1のようになる。

図1 PPTを使用した授業の流れ（26課使用PPTより一部抜粋）





ここではBKB2の26課の「温」という字の導入で使用したスライドから一部抜粋したものを示した。ここで使用している例文には26課で新たに導入した「寒, 冷, 熱, 暖」を使った漢字語彙や, 後の28課で導入する「当」を使用した漢字語彙を意図的に使用している。このように既習・未習を問わず, 春学期15回のコース内で学習する漢字語彙を例文の中に盛り込むよう心がけた。

実際の授業では, 今回抜粋した訓読みの漢字語彙だけでなく, 「体温計」「温暖な」「温暖前線」「地球温暖化」「温泉」という音読みの漢字語彙も扱っている。今回抜粋した部分で用法に関するスライドは自動詞・他動詞の使い分けと助詞の使用についての部分である。分かりやすい例文で動詞の自他の使い分けを明確にするとともに, 助詞は黄色でマークすることで学習者に注意を向けさせることを意図した。PPTのアニメーション機能を用いて筆順を示したり, 色の使い分けによって音訓を示したりすることによって, 特に学習上注意の必要な点を強調することが出来た。

### 5.3 「繰り返し」と漢字の「読み」「書き」の定着

漢字を「繰り返し」提示した回数と漢字語彙の定着の関係を見るために, ある漢字語彙を授業中に提示した回数と期末テストにおけるその漢字語彙を問う問題の正答率との相関を調べた。ここでいう提示回数とは, 授業で導入した漢字語彙をPPTの用例内に提示した回数(図1のスライド③⑤⑦に該当)及び, 漢字を書いてみようの文章内で提示した回数(図1のスライド⑨に該当), 宿題の「短文作成シート」の問題でターゲットとして提示した回数を合わせたものである。

期末テストにおける正答率は, 3クラスの履修者52名のうち全ての授業に出席した23名分を分析の対象とした。期末テストを対象としたのは, 学期の最終日に行われ, 授業で扱う全ての課が出題範囲となるからである。期末テストの構成は以下のとおりである。

#### 【読み】

- 問題1: 漢字語彙単体の「読み」を問うもの(34問)
- 問題2: 文中の漢字語彙の「読み」を問うもの(36問)
- 問題3: 文中での漢字語彙の「意味」の理解を問うもの(10問)

#### 【書き】

- 問題1: 文中の漢字語彙の「書き」を問うもの(35問)

問題2：文中での語彙の「意味」の理解とその漢字の「書き」を問うもの（15問）

表1 期末テストで用いた問題の形式

問題	問題の形式
【読み】問題1	映像
【読み】問題2	① <u>真夜中</u> にとりよりの部屋から② <u>足音</u> が聞こえた。
【読み】問題3	卒業した後の（線路・進路・通路）をもう決めましたか。
【書き】問題1	テレビの <u>がめん</u> がよごれています。
【書き】問題2	川に花火が_____います。(おって・うつって・うって)

漢字語彙の提示回数と期末テストの正答率との相関関係の有無を、ピアソンの積率相関係数を用いて分析した。分析の結果、以下の点が明らかになった。

- ① 漢字語彙の提示回数と期末テスト（読み）の正答率との間には、中程度の相関関係が認められた ( $r = .46, p = .01$ )。
  - ② 漢字語彙の読み方を問う問題1、2と、意味の理解を問う読み問題3について相関関係を調べたところ、読み方を問う問題 ( $r = .41, p = .01$ ) でも意味の理解を問う問題 ( $r = .64, p = .05$ ) でも中程度の相関が認められた。意味の理解を問う問題のほうがより高い相関を示したことから、用例を数多く目にすることは、意味の理解および定着に役立つということが考えられる。
  - ③ 漢字語彙の提示回数と期末テスト（書き）の正答率との相関を調べたところ、弱い相関関係が認められた ( $r = .35, p = .05$ )。
  - ④ 漢字語彙の提示回数のうち、「漢字を書いてみよう！」のスライドで提示された漢字を書く作業を伴った用例の提示に限った場合もまた、弱い相関関係が認められた ( $r = .31, p = .05$ ) が、書かない場合も含めて目にした回数が多いほうが高い相関を示した。このことから、「繰り返し」目にすることは、漢字の「読み」や「意味」に比べると幾分低いものの漢字の形の学習にもある一定の効果があると言える。
- さらに、学習者にとっての未知語と既知語では漢字の定着に差が出ると

考え、初中級レベルのクラスであることから、授業中に扱った語彙を『日本語能力試験出題基準改定版』（国際交流基金他2007）を参考に、旧日本語能力試験の3、4級の語彙（初級語彙約1500語と初級漢字約300字）と旧日本語能力試験2級以上の中上級語彙（中級語彙約6000語と中級漢字約1000字、上級語彙10000語と上級漢字2000字）とに分類し、期末テストとの相関関係を調べたところ、「読み」、「書き」ともに有意な相関関係は認められなかった。授業で扱った語彙の半数以上は2級以上の語彙であるが、繰り返し提出することで、3級以下の語彙と同様に学習され得ることが示唆された。

#### 5.4 漢字学習に対するビリーフ（授業後）

漢字語彙の用例や用法とともに提示することで漢字の定着を目指した実践を学習者はどのように捉えていたのかを、学期の最後に行ったビリーフ調査（授業後アンケート：資料3）の結果から分析する。

授業後アンケートでは、漢字クラスの活動で「1. 漢字を書く力」、「2. 漢字を読む力」、「3. 漢字（ことば）の意味」、「4. 文の中での漢字（ことば）の使い方」を身につけるのに役に立った活動は何かについて、それぞれ次の選択肢から選ぶという方法で回答を求めた（複数回答を可とする）。

- a. 書き順のアニメーション（PPT）
- b. 漢字の読み方と英語訳（PPT）
- c. 音読み・訓読みの色分け（PPT）
- d. 漢字（ことば）を使った例文（PPT）
- e. 例文のイラスト・写真（PPT）
- f. 「漢字を書いてみよう」シート
- g. 「漢字の読み」シート
- h. 「短文作成」シート（宿題）

また、「5. テストのために意識的に勉強したこと」、「6. 授業をとってよくわかるようになったこと/できるようになったこと」について、以下の選択肢から選ぶように指示した（複数回答を可とする）。

- a. 漢字の書き
- b. 漢字の読み
- c. 漢字の意味

d. 文の中での漢字（ことば）の使い方

e. その他

さらに、授業へのコメント（自由記述式）を記入してもらった。

本実践ではPPTの例文の中で繰り返し漢字語彙の用例を提示したことから、1～4の質問の選択肢d. 漢字（ことば）を使った例文（PPT）の回答に注目してピリーフ調査の結果を以下にまとめる。

PPTでの漢字（ことば）=漢字語彙の提示が「漢字を読む力」の育成、「漢字（ことば）の意味」の理解につながったとの回答はそれぞれ79%、75%と、各質問項目の中で一番多く選択されている。「文の中での漢字（ことば）の使い方」を身につけるのに役立ったと感じている学習者では83%と8割を超え、漢字語彙の用法までを含む漢字語彙の定着を目指す筆者らの狙い通り、学習者もその効果を実感しているということがうかがえる。

一方、「漢字を書く力」につながったと回答した学習者は65%と、その他の力と比べると幾分低い結果となった。ただし、「漢字を読む力」「漢字（ことば）の意味」の理解につながったと感じている学生ほど多くはないが、「漢字を書く力」をつけるのに役に立った活動として学習者が選択している回答の中ではf.「漢字を書いてみよう」シートの69%に次いで高い数字となっている。これらの結果からd. 漢字（ことば）を使った例文が、「漢字を読む力」「漢字（ことば）の意味」「文の中での漢字（ことば）の使い方」「漢字を書く力」などさまざまな知識や力と結びついて習得されていることがうかがえる。

自由記述のコメント欄では、「書き」、「読み」、「意味」に加えて、例文内で「用法」を学ぶことができたことを評価する回答が得られた。「This is a very useful class, because, not only do we study kanji but we use them in a sentence. I feel using them in Real Situations is much better than note learnings from a list in a book.（この授業は漢字だけを勉強するのではなく、文の中での使い方まで学ぶことができとても有益だった。漢字を実際の状況で使用することは教科書のリストの漢字をノートに書きながら学ぶことよりも良いと思う：筆者訳）」これは、「用法」まで学ぶことを意図した授業により、学生がその必要性に気づいたことの表れと解釈することができよう。

このほか、「楽しかった・面白かった・It was fun / I enjoyed this class / It was interesting class / It was enjoyable class / class was never bor-

ing」といったように「楽しい・面白い」という旨のコメントが非常に多く寄せられた。アンケートを提出した学生の実に約半数の学生が、授業の「楽しさ・面白さ」を特筆すべきこととして挙げたことになる。

## 6. 考察

本稿では、「繰り返し」の実践から漢字語彙が定着したかどうかを図る一つの指標として、漢字語彙の提示回数と期末テストの正答率の相関を調べた。その結果、期末テスト（読み）では、「読み」を問う問題、「意味」の理解を問う問題ともに中程度の相関が見られ、「意味」の理解を問う問題のほうが「読み」を問う問題よりも高い相関を示した。このことは、「繰り返し」の提示の手段としてPPTを使用したことと関係があるだろう。PPTで用例の理解を助ける写真や絵などを添えることで、漢字語彙の意味が「言語的にも視覚的にも格納された（ネーション2005）」と考えることができ、視覚的な助けを得ることで「意味」は「2重符号化」され、「読み」よりも定着が促されたと考えられる。

「書き」に関しては、授業中には十分に書く練習をする時間を確保することができなかったにも関わらず、提示回数と期末の書きテストとの相関で弱い相関関係が見られた。このことから「繰り返し」目にするのが字形の記憶や認識にも一定の効果があったと考えられる。

「繰り返し」と期末テストの正答率との相関と、授業後アンケートの結果を合わせてみると、「繰り返し」と期末テストの正答率との相関で、「読み」と「意味」において中程度の相関が見られ、「繰り返し」と「書き」においては弱い相関が見られた。学習者の実感として用例の中での漢字語彙の提示が「漢字を読む力」や「漢字（ことば）の意味」の理解につながったと考える学習者は「漢字を書く力」の習得につながったと考える学習者よりも多かった。この二点はいずれも「繰り返し」の効果が学習者の実感に反映されているものと考えられる。

「繰り返し」による定着の効果が「読み」「意味」「書き」において見られたことから、繰り返し例文を提示するという一見単純で受動的な方法であっても、PPTを使用し視覚的な効果を取り入れたり読み練習を取り入れたりすることで一つの活動を通して漢字の「読み」や「形」や「意味」、「用法」などの情報をそれぞれ関連づけてネットワーク化し、記憶をより強固なものにすることができる。その結果、それぞれの情報を検索する際にさ

まざまなネットワークからの検索が可能となったとすることができるのではないか。

以上から、以下の2つの方法が漢字学習に有効であると考えられる。

- (1) 「繰り返し」漢字を提示することで、漢字が無理なく定着する。
- (2) 漢字の「運用力」をつけるためには、「書き」「読み」「意味」に加えて「用法」を含むネットワーク型の漢字教材が適切である。

## 7. 今後の展望と課題

本稿では、「繰り返し」と漢字語彙の定着との相関を見てきたが、漢字語彙を繰り返し提示する上での限界も見えてきた。それは、BKB2で扱われている漢字語彙の中には様々な場面で広く使われる語もあれば、一方では限定的な状況や文脈でしか使われない語（例：「借書」「使徒」）なども含まれていることとも大きく関係している。初中級レベルのクラスでどこまでの語彙を実際に使用語彙として定着させるか、その基準や分類方法についてもまだまだ議論すべき点が多くある。

また、「繰り返し」を用いた実践は漢字語彙の「読み」、「書き」、「意味」に加え、その「用法」の定着までを目指したものである。宿題の「短文作成シート」で「用法」の理解と実際の使用を確認することができたが、本稿では「用法」の定着については検討することができなかった。今後、「短文作成シート」の分析を進め、「繰り返し」と「用法」の定着の関係についても明らかにしたい。

なお、漢字（漢字語彙）を「書く」作業には手書きで「書く」ものと、PCや携帯電話などで音を変換して選ぶことで「書く」ものがあり、また「読む」作業には読み方がわかり、正しい音で表して「読む」といったものと、意味がわかり文が読解できるという意味での「読む」とがある。昨今の漢字使用を鑑みれば、手書きよりもPCや携帯電話で「書く」機会が非常に多く、変換して正しい漢字が選べるという「書く」力の育成も積極的に授業に取り入れていくべきであると思われる。今後、「書く」「読む」といった言葉の捉え直しを行い、いかに授業へ反映させるかが課題である。

最後に、漢字の授業について、PPTを用いた授業を実施する前には、難しく苦痛を伴うものであるドリフをもっていた学習者が、授業実践後には「楽しい・面白い」と変化したことは、この漢字の授業を考える上で非

常に重要な要素と言える。漢字学習を楽しいと感じられる授業づくりをすることは、学習者の情意フィルターを下げることにつながり、漢字の学習を促進することにつながる。「楽しい・面白い」と感じる情意的な要素が、漢字学習へのモチベーションを維持し、漢字の習得を促進するのではないかと予想される。それを検証することは難しい。しかし漢字の学習には終わりが無い以上、漢字学習を「楽しい・面白い」と感じることは、この先日本語学習を続ける限りずっと続くであろう漢字学習との付き合いにおいて、その成否を左右する重要な要素となると言えるのではないだろうか。

## 注

1 2010年より現行の日本語能力試験へ移行したが、現行の試験の出題基準は非公開であるため、本稿では、旧日本語能力試験（以下旧試験）の出題基準を参考とする。旧試験4級は現行試験のN5に、3級は現行試験のN4に、2級は現行試験のN2に、1級は現行試験のN1に相当する。現行試験では、旧試験の3級と2級の間レベルに相当するN3レベルが新設されている。

旧日本語能力試験の出題基準によると、初級修了の目安となる旧日本語能力試験3級合格レベルでは、漢字数は300字程度、語彙数は1500語程度であるのに対し、中級にあたる2級合格レベルでは漢字数1000字程度、語彙数6000語程度、上級にあたる1級合格では漢字数2000字程度、語彙数10000語程度といったように、中級から、学習する漢字数、語彙数ともに急増する。

2 本データは、首都圏の大学が設置する留学生のための日本語コースの2010年度春学期の漢字科目で、科目名は「漢字3」、教材開発者および授業担当者は、木村・北村である。「漢字3」は共通のシラバスの「漢字3A」「漢字3B」「漢字3C」の3クラスが開講された。これらの授業で使用したPPTなどの教材は「漢字3A」「漢字3B」の担当者（木村・北村）が共同で作成したものである。本稿では、「漢字3C」の担当者の協力を得て、「漢字3A」「漢字3B」「漢字3C」の3つのクラスの実践について報告する。

3 クラスごとの人数はそれぞれ、13名、23名、16名である。

## 参考文献

- Rott, S. (1999) The effect of exposure frequency on intermediate language learners' incidental vocabulary acquisition and retention through reading. *Studies in Second Language Acquisition*, 21, 589-619.
- Saragi, T., Nation, I.S.P. and Meister, G.F. (1978) Vocabulary learning and reading. *System*, 6, 72-78.



- Tinkham, T. (1993) The effect of semantic clustering on the learning of second language vocabulary, *System*, 21, 371-380.
- Zahar, R., Cobb, T. and Spada, N (2001) Acquiring vocabulary through reading : Effects of frequency and contextual richness. *Canadian Modern Language Review*, 57, 541-572.
- 加納千恵子 (1997) 「非漢字圏学習者の漢字力と習得過程」『日本語教育論文集—小出詞子先生退職記念—』凡人社, pp.257-268
- 加納千恵子 (1999) 「初級漢字の品詞性と造語性」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』14号, pp.45-79
- 加納千恵子 (2000) 「中上級学習者に対する漢字語彙教育の方法」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』20-2, pp.35-46
- 加納千恵子 (2007) 「漢字テストのレベル別評価項目」『国際会議CASTEL/J2007 PROCEEDINGS』米国・ハワイ大学カピオラニ校, pp.121-124
- 北村尚子・木村祐子 (2009) 「運用力に重点をおいた漢字指導の一試案」『早稲田大学日本語教育学会2009年秋季大会パネルディスカッション・研究発表会資料』, pp.18-19
- 倉八順子 (1996) 「語句の指導」『日本語学の世界 日本語学7月臨時増刊号』明治書院, pp.215-222
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会 (2007) 『日本語能力試験出題基準【改訂版】』凡人社
- 国際交流基金, 日本国際教育支援協会 (2009) 『新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N1, N2, N3編』凡人社
- 国際交流基金, 日本国際教育支援協会 (2009) 『新しい「日本語能力試験」ガイドブック概要版と問題例集N4, N5編』凡人社
- ネーション, I.S.P., 吉田晴世・三根浩 訳 (2005) 『英語教師のためのボキャブラリーラーニング』松柏社
- 玉村文郎 (1993) 「日本語における漢字—その特質と教育—」『日本語教育』80号, pp.1-14
- 坪根由香里・鈴木理子・阪本史代・神谷道夫 (2001) 「学習者から見た効果的な語彙の指導法—学習法—アンケート結果より—」『小出記念日本語教育研究会論文集』9, pp.107-129
- 寺嶋弘道・小林潔子 (2009) 「コロケーション情報を用いた漢字語彙学習の試み」『ポリグロシア』立命館アジア太平洋研究センター, pp.139-149
- 寺嶋弘道 (2011) 「日本語教育におけるコーパスの応用—データ駆動型学習とその実践方法の考察—」『ポリグロシア』20立命館アジア太平洋研究センター, pp.91-103
- 徳弘康代 (2007) 「表出能力を伸ばす漢字語彙学習の実践」WEB版『日本語教育実践研究フォーラム報告』
- 望月正道・相澤一美・投野由紀夫 (2003) 『英語語彙の指導マニュアル』大修館書店



山下喜代 (1993) 「日本語教科書の語彙」『日本語学』12-2, pp.54-64

## 資料1 読み練習シート（自宅復習用）ルビなし、ルビあり

漢字3 読み練習シート

## 第26課

01. 春になると、日本中で桜の花がさいて、とてもきれいです。  
はる にほん じゅう さくら はな
02. 春休みに、車を借りて北海道を旅行しました。  
はるやす くるま か ほっかいどう りょこう
03. 春分の日、休みです。今年の春分の日は、いつでしたか。  
しゅんぶん ひ やす ことし しゅんぶん ひ
04. 一番楽しかった青春の思い出は何ですか。  
いちばんたの せいしゅん おもひ で なん
05. 日本の夏は、むし暑いです。  
にほん なつ あつ
06. 夏休みに、何か予定がありますか。  
なつやす なに よてい
07. 秋はおいしい食べ物がたくさんあります。  
あき た もの
08. 秋分の日、夜と昼の長さが同じです。  
しゅうぶん ひ よる ひる なが おな
09. 晩秋の山は、とてもきれいです。  
ばんしゅう やま
10. 秋刀魚は、どのように料理したら、おいしいですか。  
さんま うしり
11. 冬になったら、スキーがしたいです。  
ふゆ
12. 日本には、春夏秋冬の4つの季節があります。  
にほん しゅんかしゅうとう きせつ
13. みなさんの国では、何月が一番暑いですか。  
くに なんがつ いちばんあつ
14. 先生に暑中見舞を書いて送りました。  
せんせい しゅちゅうみまい か おく
15. 熱いコーヒーが飲みたいです。  
あつ の
16. 熱があるときは、早く寝たほうがいいですよ。  
あつ はや ね
17. ワンさんは、いつも熱心に日本語を勉強しています。  
わんさん にほんご べんきょう
18. 日本では10月ぐらゐから、だんだん寒くなります。  
にほん がらゐ さむ
19. 何か冷たいものが飲みたいです。  
なに つめ の
20. 熱が出たときは、頭を冷やすといいです。  
あつ で あたま ひや
21. 寒い日に、一日中外にいたので、体が冷えてしまいました。  
さむい ひ いちにち中外じ かんたひ
22. この部屋は、冷房が強くて、寒いです。  
へや れいぼう つよ さむ
23. この電車は寒いので、弱冷房車に行きましょう。  
でんしゃ さむ じやくれいぼうしや い

**第26課**

01. 春になると、日本中で桜の花がさいて、とてもきれいです。
02. 春休みに、車を借りて北海道を旅行しました。
03. 春分の日は、休みです。今年の春分の日は、いつでしたか。
04. 一番楽しかった青春の思い出は何ですか。
05. 日本の夏は、おし暑いです。
06. 夏休みに、何か予定がありますか。
07. 秋はおいしい食べ物がたくさんあります。
08. 秋分の日は、夜と昼の長さが同じです。
09. 晩秋の山は、とてもきれいです。
10. 秋刀魚は、どのように料理したら、おいしいですか。
11. 冬になったら、スキーがしたいです。
12. 日本には、春夏秋冬の4つの季節があります。
13. みなさんの国では、何月が一番暑いですか。
14. 先生に暑中見舞を書いて送りました。
15. 暑いコーヒーが飲みたいです。
16. 熱があるときは、早く寝たほうがいいですよ。
17. ワンさんは、いつも熱心に日本語を勉強しています。
18. 日本では10月ぐらいから、だんだん寒くなります。
19. 何か冷たいものが飲みたいです。
20. 熱が出たときは、頭を冷やすといいです。
21. 寒い日に、一日中外にいたので、体が冷えてしまいました。
22. この部屋は、冷房が強くて、寒いです。
23. この電車は寒いので、弱冷房車に行きましょう。

## 資料2 「短文作成シート」(宿題)

漢字3 L26

◆短文作成シート◆ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

1～4のく &gt;の中のことばを使って、文を作ってください。

※く&gt;の中にことばがいくつかあるときは、一つえらんで書いてください。

5とらほ、26課で勉強した漢字を使って、自由に書いてください。

書く文は2文以上で、ことばの意味がよくわかるように書いてください。例. 

しあい か 試合・勝つ	しあい ま 試合・負ける
----------------	-----------------

 ←どちらか一つえらんで、書きましょう。

例1) いっしょうけんめい練習して、試合に勝ちました。うれしかったです。

例2) A「どうすれば試合に勝つことができますでしょうか。」

B「毎日、練習すれば、きっと勝てますよ。」

1. &lt;春/夏/秋/冬&gt;

\_\_\_\_\_

2. &lt;暑い/寒い&gt;

\_\_\_\_\_

3. &lt;暖かい/涼しい&gt;

\_\_\_\_\_

4. &lt;熱い/温かい/冷たい&gt;

\_\_\_\_\_

5. &lt;～(を)冷やす/～(が)冷える/～(を)温める/～(が)温まる&gt;

\_\_\_\_\_

6. &lt; \_\_\_\_\_ &gt;

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

## 資料3 「漢字3授業アンケート」

## 漢字3授業アンケート Kanji3 Class Questionnaire

漢字3クラスについて、次の1～6の質問に答えてください。Please answer the questions below.

1. 漢字3クラスで、「漢字を書く力」をつけるのに役に立った活動は何ですか。  
次のa～hの中から選んで○をしてください。(いくつ選んでもいいです。)

Which activities were instrumental in learning Writing skill of Kanji. (Please circle below. You can choose more than one.)

- |  |  |   |
|--|--|---|
| a. 書き順のアニメーション(P.P.T.)<br>Stroke order animation(P.P.T.) | b. 漢字の読み方と英語訳(P.P.T.)<br>Reading and English translation(P.P.T.) | c. 音読み・訓読みの色分け(P.P.T.)<br>Color coding of "On" and "Kun" (P.P.T.) |
| d. 漢字(ことば)を使った例文(P.P.T.)<br>Example sentence(P.P.T.)     | e. 例文のイラスト・写真(P.P.T.)<br>Pictures・Illustration(P.P.T.)           | f. 「漢字を書いてみよう」シート<br>「Let's write Kanji」 Sheet                    |
| g. 「漢字の読み」シート<br>「Kanji reading」 Sheet                   | h. 「短文作成」シート(宿題)<br>「Short sentence drafting」 Sheet              |   |

2. 漢字3クラスで、「漢字を読む力」をつけるのに役に立った活動は何ですか。  
次のa～hの中から選んで○をしてください。(いくつ選んでもいいです。)

Which activities were instrumental in learning Reading skill of Kanji. (Please circle below. You can choose more than one.)

- |  |  |   |
|--|--|---|
| a. 書き順のアニメーション(P.P.T.)<br>Stroke order animation(P.P.T.) | b. 漢字の読み方と英語訳(P.P.T.)<br>Reading and English translation(P.P.T.) | c. 音読み・訓読みの色分け(P.P.T.)<br>Color coding of "On" and "Kun" (P.P.T.) |
| d. 漢字(ことば)を使った例文(P.P.T.)<br>Example sentence(P.P.T.)     | e. 例文のイラスト・写真(P.P.T.)<br>Pictures・Illustration(P.P.T.)           | f. 「漢字を書いてみよう」シート<br>「Let's write Kanji」 Sheet                    |
| g. 「漢字の読み」シート<br>「Kanji reading」 Sheet                   | h. 「短文作成」シート(宿題)<br>「Short sentence drafting」 Sheet              |   |

3. 漢字3クラスで、「漢字(ことば)の意味」をつけるのに役に立った活動は何ですか。  
次のa～hの中から選んで○をしてください。(いくつ選んでもいいです。)

Which activities were instrumental in learning Definition of Kanji / Kanji vocabulary. (Please circle below. You can choose more than one.)

- |  |  |   |
|--|--|---|
| a. 書き順のアニメーション(P.P.T.)<br>Stroke order animation(P.P.T.) | b. 漢字の読み方と英語訳(P.P.T.)<br>Reading and English translation(P.P.T.) | c. 音読み・訓読みの色分け(P.P.T.)<br>Color coding of "On" and "Kun" (P.P.T.) |
| d. 漢字(ことば)を使った例文(P.P.T.)<br>Example sentence(P.P.T.)     | e. 例文のイラスト・写真(P.P.T.)<br>Pictures・Illustration(P.P.T.)           | f. 「漢字を書いてみよう」シート<br>「Let's write Kanji」 Sheet                    |
| g. 「漢字の読み」シート<br>「Kanji reading」 Sheet                   | h. 「短文作成」シート(宿題)<br>「Short sentence drafting」 Sheet              |   |

4. 漢字 3 クラスで、「文の中の漢字(ことば)の使い方」をつけるのに役に立った活動は何ですか。  
次の a~h の中から選んで○をしてください。(いくつ選んでもいいです。)

Which activities were instrumental in learning Usage of Kanji/ Kanji vocabulary. (Please circle below. You can choose more than one.)

- |  |   |   |
|--|---|---|
| a. 書き順のアニメーション(P.P.T.)<br>Stroke order animation(P.P.T.) | b. 漢字の読み方と英訳(P.P.T.)<br>Reading and English translation(P.P.T.) | c. 音読み・訓読みの色分け(P.P.T.)<br>Color coding of "On" and "Kin" (P.P.T.) |
| d. 漢字(ことば)を使った例文(P.P.T.)<br>Example sentence(P.P.T.)     | e. 例文のイラスト・写真(P.P.T.)<br>Pictures・Illustration(P.P.T.)          | f. 「漢字を書いてみよう」シート<br>「Let's write Kanji」 Sheet                    |
| g. 「漢字の読み」シート<br>「Kanji reading」 Sheet                   | h. 「短文作成」シート(宿題)<br>「Short sentence drafting」 Sheet             |   |

5. 小テストや中間テスト、期末テストのために、意識的に勉強したことは何ですか。  
次の a~h の中から選んで○をしてください。(いくつ選んでもいいです。)

Which of the following did you consciously study before taking quiz, mid-term exam, and final exam?

(Please circle below. You can choose more than one.)

- |                          |                   |                     |
|--------------------------|-------------------|---------------------|
| a. 漢字の書き Writing         | b. 漢字の読み Reading  | c. 漢字の意味 Definition |
| d. 文の中の漢字(ことば)の使い方 Usage | e. その他 Others ( ) |                     |

6. この授業をとって、何がよくわかるように/よくできるようになりましたか。  
次の a~h の中から選んで○をしてください。(いくつ選んでもいいです。)

Which of the following skills has been improved since taking this class? (Please circle below. You can choose more than one.)

- |                          |                   |                     |
|--------------------------|-------------------|---------------------|
| a. 漢字の書き Writing         | b. 漢字の読み Reading  | c. 漢字の意味 Definition |
| d. 文の中の漢字(ことば)の使い方 Usage | e. その他 Others ( ) |                     |



最後に、この授業について何かコメントがあれば書いてください。



If you have any feedback regarding this class, please feel free to tell us anything. (You may write in English.)

(良かった点、良くなかった点、何でもいいです。)※日本語で書くのが難しければ、英語で書いてもいいです。

どうもありがとうございました。

Thank you for your cooperation.